## １　研究主題及び副題

**確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた児童生徒の育成**

～須木中学校区の教育的環境を生かした小中一貫教育を通して～

## ２　主題設定の理由

急速にすすむ国際化や情報技術の発展、少子・高齢化社会の進行などの大きな社会の変化は、価値観の多様化、家庭や地域の教育力の低下など、子どもを取り巻く環境にも様々な影響を及ぼしている。さらに、子ども達の学力低下や学校生活への不適応、規範意識の低下、食生活の乱れや体力低下など、対策の必要性が指摘されている。

本県では、「宮崎の教育創造プラン」が策定され、その具体的方策として第２期戦略プロジェクトが展開されている。その中で、県民総ぐるみで子ども達の人間力を育む教育の推進を図り、「地域の特性を生かした多様な一貫教育の推進」や「学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくりの推進」をすることが目指されている。

小林市においては、「夢と生きがいをもった人を育てるまちづくり」が推進され、特に学校教育においては「夢と元気と勇気ある小林教育」を基本理念として、小林に産まれたものが小林で育ち、小林に自信と誇りを持って生きていく「地産・地育・地生」の教育を目指している。今年度より、全中学校区において小中一貫教育を開始し、９年間を見通した系統性・一貫性のある指導により、児童生徒一人一人の個性や能力を伸ばし、「知育」「徳育」「体育」「食育」のバランスのとれた教育活動を推進することをねらっている。

須木中学校区では平成１７年度からの３年間、小中連携推進事業推進拠点校として、「知」「徳」「体」の到達目標を設定し、調和のとれた児童生徒の育成を目指した取組を進めてきた。平成２０年度からは、小中連携確立支援事業推進拠点校として、須木中学校、須木小学校、鳥田町小学校の３校がより一層の連携を図り、共通の指導実践や交流授業等の教育活動に取り組んできた。

これまでの取組により、児童生徒は、自己評価や教師からのフィードバック等を通して到達目標達成状況を把握し、自分の行動や変容を振り返る経験を重ねてきた。それにより、課題を見つけ主体的に学習したり、温かい友達関係づくりに取り組もうとしたりするなど、意欲の高まりが出てきた。また、体力向上に向けて進んで運動に取り組む姿も多く見られるようになってきた。

しかしながら、様々な学習の基盤となる基礎的な力が十分に身に付いていない、基本的な生活習慣や社会規範に対する意識が十分でない、運動に取り組む姿勢に二極化が見られる、栄養のバランスのとれた食事への意識が低いなどの課題も浮き彫りになってきた。また、指導する側においては、共通実践に向けての意識の共有化や各研究組織の連携が十分でなかったなどの課題が出てきた。

このような課題を解決するため、３校が共通の研究主題を掲げ、これまでの連携事業で培ってきた手法や成果を生かしながら研修の共同化や共通行事の見直し等を図っていく必要があると考えた。さらに、自然が豊かである、学校規模が小さい、保護者間のつながりが深いといった点を須木中学校区の教育的環境のプラス面ととらえ、体験的な学習や少人数指導、３校間の情報交換、保護者との連携を充実させるなど、一貫教育の学習・指導内容や指導方法、指導体制を確立し、家庭・地域との連携を深めていくことが必要であると考えた。

そこで、研究主題を「確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた児童生徒の育成」とし、副題を「須木中学校区の教育的環境を生かした小中一貫教育を通して」と設定し、３校の教育目標である「自ら目標をもち、未来をたくましく生きぬく子どもの育成」の実現に迫っていくこととした。

## ３　研究の目標

確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた児童生徒を育成するために、須木中学校区の教育的環境を生かした小中一貫教育の在り方を追究する。

## 4　研究仮説

小・中学校９年間を見通し、「知育」「徳育」「体育・食育」各領域において、確実に身に付けさせたい学習内容やその指導方法を確立し、家庭・地域との連携を深め、指導の系統性・一貫性を高めていけば、めざす児童生徒の育成に迫ることができるであろう。

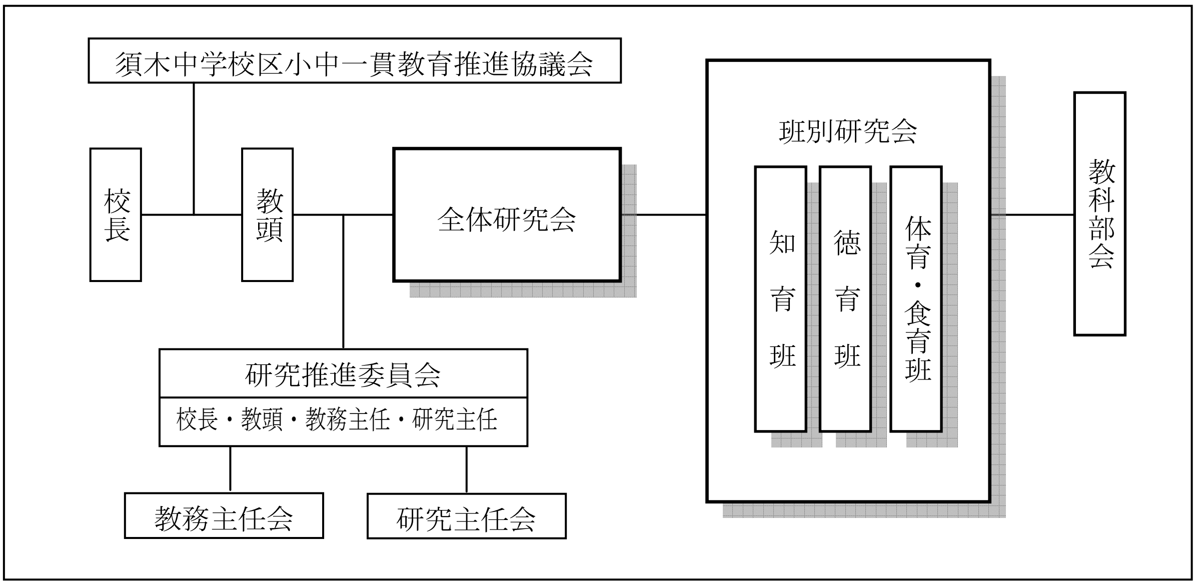
## 5　研究の内容（年次計画）

◎は重点内容

| 観点等 | | 研　究　内　容 | H21 年度 | H22 年度 |
|---|---|---|---|---|
| 知育 | 学習指導 | 学力にかかわる実態把握・共通理解 | ○ | ○ |
| | | 共通した基本的な学習習慣の検討・設定（学習のきまり等） | ◎ | ○ |
| | | 学力向上プランの検討・作成・実践 | ○ | ◎ |
| | | 各教科の学習指導方法の工夫改善 | ○ | ○ |
| | | 家庭学習のすすめの検討・設定 | ◎ | ○ |
| | | 共通の月目標・指導週間の設定 | ○ | ◎ |
| 徳育 | 生徒指導 | 生徒指導にかかわる実態把握・共通理解 | ○ | ○ |
| | | 基本的な生活習慣（生活のきまり）の検討・設定・指導 | ◎ | ○ |
| | | 共通の月目標・指導週間の設定・指導 | ○ | ◎ |
| | | 「こすもす科」との関連事項の検討・実践 | ◎ | ○ |
| | | 家庭・地域との連携の在り方の検討・実践 | ◎ | ○ |
| | 道徳教育 | 道徳性にかかわる実態把握・共通理解 | | ○ |
| | | 道徳教育の全体計画の検討・作成 | | ◎ |
| | | 「こすもす科」との関連事項の検討 | | ○ |
| | | 「こすもす科」の実践・指導方法の工夫改善 | | ◎ |
| 体育・食育 | 体力向上 | 体力にかかわる実態把握・共通理解 | ○ | ○ |
| | | 体力向上プランの設定 | ◎ | ○ |
| | | 体力向上へ向けた取組・実践 | ○ | ◎ |
| | | 体育の時間の学習指導方法の工夫改善 | ◎ | ○ |
| | 食育指導 | 食育にかかわる実態把握・共通理解 | ○ | ○ |
| | | 食に関する指導の全体計画の見直し | ○ | ○ |
| | | 食に関する指導の年間計画の見直し | ◎ | ○ |
| | | 食に関する指導の工夫改善 | ○ | ◎ |
| 教育課程 | | 教育課程の検討・改善 | ○ | ○ |
| | | 教科担任制、小中交流授業の運営 | ○ | ○ |
| | | 学校組織及び教職員の支援体制にかかわる検討 | ○ | ○ |
| | | 学校評価システムの確立 | ○ | ○ |
| | | 「こすもす科」の研修と実践 | ○ | ○ |

## ６　研究の組織及び運営

### ⑴　組織




### ⑵　運営

原則として毎月一回の水曜日（１５：３０〜１６：４５）に研修日を設定し、全体研究会、班別研究会、教科部会を計画的に実施し、研究主題を究明する。

○　研究主任会

各校の研究主任で構成し、本研究の推進役を務め、研究推進委員会に提案する資料作成を行う。また、研究推進委員会、全体研究会を受けて研究の方向性を修正するとともに、３校の取組について連絡・調整を行う。

○　教務主任会

各校の教務主任で構成し、主として教育課程に関する連絡・調整を行う。共通の行事の計画やその実施を推進する。

○　研究推進委員会

３校合同研究推進委員会は、校長、教頭、教務主任、研究主任で構成し、研究主題・研究の目標を具現化するために、研究事項や研究実践の企画立案を行う。

○　全体研究会

必要に応じて計画し、研究推進委員会、各班別研究会で検討された研究内容・実践事項等について、全体で協議・検討し、研究についての共通理解を図る。

○　班別研究会（知育班、徳育班、体育・食育班）

研究推進委員会、全体研究会を受けて、研究主題に迫る研究をより具体的に進めるために、３つの研究班を組織し、各研究班で、理論的・実践的な研究及び研究実践事項の提案を行い、共通理解を図り、共通実践する。

○　教科部会

交流授業の計画・実施、教科指導プランの検討・作成等をするために、必要に応じて会を設ける。また、作成した教科指導プランの共通実践のための具体的な手立てを提案する。